

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立稲葉特別支援学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒の教育的ニーズに対応できる高い専門性と信頼性を備え、常に児童生徒を主人公にしながら進化する特別支援学校
育みたい児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校生活を通して、人と楽しく関わり、自分のできることを増やし、自立に向けた確かな力を身につけている。 ○ 卒業後の姿を具体的に描き、その実現に向け、さまざまな経験を通して、主体的に自分の課題に取り組んでいる。 ○ 基本的な生活習慣が身につき、仲間とともに、健康の増進と体力の向上に取り組んでいる。 ○ 自他を大切にする心情や行動力を身につけている。
ありたい教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員一人ひとりが特別支援教育の実践に誇りを持ち、学習指導や校務運営等に積極的に参画している。 ○ 中勢地区における特別支援教育のセンターとしての機能を高め、地域への支援や特別支援教育に関する情報発信を積極的に進めている。 ○ 児童生徒の成長を通して達成感や充実感が共有できるよう職場環境の充実に努めている。 ○ 対話を通じて「チーム稲葉」として協働に取り組んでいる。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈児童生徒〉卒業後に社会の一員として自立できる確かな力を育ててほしい。</p> <p>〈保護者〉子どもの教育的ニーズに応じた教育を実践し、生きる力を伸ばしてほしい。</p> <p>〈関係機関〉子どもたちや家庭の課題、あるいは子どもたちの進路について、学校と連携しながら取り組み、解決を図りたい。</p> <p>〈地域〉特別な支援の必要な子どもたちへの指導について、専門的な支援をしてほしい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p style="text-align: center;">連携する相手からの要望・期待</p> <p>〈保護者〉子どものニーズに応じた教育を実践し、子どもの力を伸ばしてほしい。</p> <p>〈関係機関〉子どものニーズに関して緊密に連携し、ネットワークづくりや学校からの発信を期待している。</p> <p>〈地域〉障がいのある子どもたちの教育について、専門的・具体的な指導・助言を行ってほしい。地域の中の学校として、地域とのつながりを大切にしたい。</p>	<p style="text-align: center;">連携する相手への要望・期待</p> <p>〈保護者〉学校と家庭の連携のもとに、子どもたちへの指導を協力して進めていただきたい。</p> <p>〈関係機関〉ネットワークを通じて、子どもや保護者の生活を支えてほしい。子どものニーズに応える職場環境の確立に協力していただきたい。</p> <p>〈地域〉障がいのある子どもたちへの適切な指導及び必要な支援の充実に取り組んでほしい。地域の中の学校として、本校の子どもたちへの理解や、本校との連携を図ってほしい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・「はっぴーのーと」や「パーソナルカルテ」の活用を図るには、その活用する場面、メリットを伝えていく必要がある。 ・防災については、地理的に高台であること等により、緊迫があまりないことが予想されるが、今後も保護者、地域、近隣施設と連携していくことが重要である。 ・保護者とのコミュニケーションも重要である。保護者も職員も、互いに電話や連絡帳だけでなく、実際に顔を合わせて話すこともお互いの理解に繋がり重要である。 ・キャリア教育をさらに推進し、キャリアプログラムと授業を連動させ、例えば、作業実習等でのねらい、めざすものを保護者等によりわかりやすいものにしていく。 	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の障がいの実態が多様化しており、医療機関等との連携が必要となっている。また、家庭での養育上の課題などにより、福祉関係機関等との密接な連携が必要な児童生徒も増加している。 ・希望者が増加しており、さらなる進路先の確保とともに確実な就労に結びつく技能や態度を身につけることが求められている。 ・人と関わるのが苦手な児童生徒が多く、社会性を多様な方法で具体的に身につけさせることが求められている。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の施設・設備が老朽化してきているので、児童生徒にとって安全・安心な環境を確保するため、施設・設備の改修・更新が必要である。また、大規模災害時の児童・生徒及び地域住民の避難場所となることを想定し、「避難所」機能の整備を進めるとともに、地域との協定も視野に入れた連携が課題となっている。 ・地域における特別支援学校のセンター的機能を発揮し、特別な教育的支援を必要とする子どもたちへの教育指導や支援に取り組みことが求められている。 ・教職員の「仕事へのやりがい」は高いが、情報共有・会議運営など職場環境に課題もあり、労働安全衛生の向上が求められている。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒や保護者の思い、地域や関係機関及び産業界などの期待をしっかりと把握し、小学部から高等部までの一貫したキャリア教育を進める。 ・高等部における職場実習を活用したデュアルシステムの構築と進路指導の一層の充実を図る。 ・保護者や医療、福祉、労働等の関係機関と連携して、ツール等を活用しながら、一人ひとりに応じた教育指導を進める。 ・地域の学校との交流及び共同学習を幅広く展開し、人権教育を推進する。 ・日々仲間と共に児童生徒の「生きる力」の基礎となる体力作りを進める。 ・自他のいのちを大切にし、社会性を身につけさせるため、ポジティブな指導を進める。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が、専門性を高めるために、教育課程や授業方法が最善のものとなっているかを常に検証しながら、研修機会の充実に取り組む。 ・地域に開かれた特別支援学校としての果たすべきセンター的役割を明確にし、地域の学校等への支援や情報発信を充実させるとともに、授業実践の公開等を行う。 ・防災・危機管理の想定域を広げながら、「想定外」の事態の縮減に努め、より実践的な防災訓練、危機管理対応訓練等を地域や関係機関と連携して実施し、組織及び教職員一人ひとりの対応力の向上に取り組む。 ・「チーム稲葉」として協働し、学校の「進化」に積極的に関わられるよう、情報の発信や共有を進める。 ・一人ひとりの教職員が、各自のワークライフバランスの充実を念頭に勤務時間内での業務遂行に取り組めるよう、働きやすい環境づくりを行い、過重労働の削減に取り組む。 ・これまでの成果と課題を検証しながら、学習指導要領改訂を踏まえ、今後の授業の質の改善に向けた環境整備について、長期なスケジュールを含めて検討を進める。 ・保護者や関係機関と連携しながら、個に応じた教育の充実と授業参観の機会の拡大を進める。

	<p>年2回の持久走記録会の実施、日々の体育の授業、サッカー部の活動等を通じて、基礎となる体力づくりを進める。</p> <p>(4) 寄宿舎では、規則正しい、健康的な生活を送り、体力の向上に努める。</p> <p>(5) 年度当初・長期休業日(夏期・冬期)前に、体力づくりを含めた生活指導のプリントを家庭配布する。</p> <p>(6) 食に関する授業を行い、食事の重要性、心身の健康、食品を選択する力、感謝の心、社会性、食文化を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学部:年3回 ・中学部:年2回、各学年で年2回 ・高等部:各学年で年3回 <p>(7) 保健集会や保健に関する授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学部:年2回 ・中学部:年2回 ・高等部:各学年で年2回 <p>(8) 健康相談を実施し、校医や専門機関との連携をはかり、個人個人に応じた問題解決に努める。(年3回)</p>	<p>ば園周3周、持久走記録会</p> <p>(4)日課に基づき、規則正しい生活を送る。自由時間に散歩、ジョギング</p> <p>(5)長期休業前にプリント配布</p> <p>(6)小:学期1回食育集会、中:年間6回食育授業、高:2年4回、3年3回食育授業</p> <p>(7)小:2・3 学期保健集会、中:7月夏休みの過ごし方、高:12/1「生と性の教育」外部講師、1年2回、3年1回</p> <p>(8)心の健康相談3回、PT相談2回(4日間)</p>	
<p>社会性の伸 長</p>	<p>(1) 小学部では、自他の命の大切さを意識できるような授業実施(年1回以上)</p> <p>(2) 中学部では、課題学習の時間や校外学習などの事前学習を通して、社会生活を営むうえで、培っていかねばならないマナーやルールについて学習する。また、学級活動などを中心に命を大切にしていける学習を進める。</p> <p>(3) 高等部では、総合学習や社会生活の授業を通して、生徒の社会性の向上に取り組む。(外部講師を招いての授業を年3回、校外学習等を年3回行う。)</p> <p>(4) 寄宿舎では、一人ひとりの子どもの特性に応じて、挨拶や掃除、当番活動の取り組みを行う。</p>	<p>(1)日常生活指導において、ルールを守ることの大切さや友だちと一緒に活動に取り組むことの楽しさを感じ取れる指導。</p> <p>(2)学校間交流で他校の生徒と活動することで人とつながることができた。校外学習等で、マナーやルールについて事前に指導したことで、適切な行動ができる生徒が増えた。</p> <p>(3)外部講師を招いての授業7回、1年校外学習9回、校外学習2年3回、3年宿泊学習、修学旅行、校外学習3回</p> <p>(4)挨拶や掃除、当番活動の指導</p>	<p>※</p>

改善課題

キャリア教育の充実に取り組みは、学部や分掌を超えた横断的な委員会が進捗をチェックしながら、取り組んだ点は定着をより進めている。一方、今回、授業改善をテーマに取り組み、各授業の目標設定を通じ、日常の授業、活動の重要性があらためて確認できた。今後も引き続き、キャリア教育の視点で捉え直し、個々の指導との関連を意識した授業づくりが課題である。社会性の伸長については、SSTなど、障がいの特性等の状況に応じた取組み、工夫を様々な場面で、意識的に今後も続けていくことが課題である。また、交流については、継続されているが、今後相手校の事情によりこれまでの形態を見直す必要も出てきている。

(2) 学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
専門性の向上	<p>(1) 学部内での授業検討会を年間3回実施する。</p> <p>(2) 各学部で授業についての検証を行い、改善案を検討するとともに、学部を越えた研修の機会を持つなど学校全体として授業の方法について研究・検討を行い、改善に取り組む。</p> <p>(3) 本校のニーズに合った外部講師を招いての全体研修会と授業検討を年2回以上開催し、学部研修において、年に2回以上各学部の交流が図れる機会を取り入れる。</p>	<p>(1)小:KJ 法による授業検討会 3回</p> <p>(2)学部研修11回、7・3月学部合同研修</p> <p>(3)外部講師 8/28:学部研修・全体研修、11/27 授業公開・全体研修</p>	◎
開かれた学校への展開	<p>(1) 保護者による授業参観がしやすい環境を設定する。 ・小学部・中学部・高等部ともに 4回以上(運動会や学校祭等を除く。年間行事計画に位置付ける)</p> <p>(2) 学校見学会や地域支援講座、保護者研修会をそれぞれ年1回以上実施する。</p> <p>(3) 学校ホームページを活用した情報発信をより一層進める。</p>	<p>(1)小:4回(自由参観、期末面談)、中:6回(自由参観学期1回期末懇談)、高:各学年5回以上(自由参観、期末面談)</p> <p>(2) 7/3 学校見学会 127名、8/8 地域支援会議 71名、9/25 パートナシップ見学会 31社 51名、保護者研修会 12/15・1/31</p> <p>(3)研修会案内、キャリアプログラム等の掲載</p>	※ ◎
危機管理の充実	<p>(1) スクールバス運行中の災害を想定したハザードマップの改定と整備を行い、不測の事態に対応できるよう避難訓練を年1回実施する。</p> <p>(2) 不審者対応訓練を年1回実施し、緊急時における対応を周知する。</p> <p>(3) 児童生徒、教職員が命を守るための実践力を身につけるため、新しい想定を取り入れた防災訓練を年間2回以上行う。</p> <p>(4) 新たな想定を加え、寄宿舎での危機管理の充実を図る。 ・避難訓練 (年3回) ・不審者対応訓練(年1回) ・職員対象訓練 (発作対応)(失踪時対策)</p> <p>(5) 安心メールを活用して保護者への緊急連絡を行う。</p>	<p>(1)5/2SBの救急救命講習</p> <p>(2)11/17 不審者対応訓練</p> <p>(3)7/5 地震避難訓練、9/7 火災避難訓練・煙体験</p> <p>(4)避難訓練3回、5/15 不審者対応訓練、7/18 失踪時対応訓練、1/18AED 防災教室</p> <p>(5)降雪、凍結等の天候、渋滞によるSBの遅延等の情報発信</p>	◎
働きやすい環境づくりの推進	<p>(1) 定時退校日を設定する。(毎月第1及び第3金曜日に実施)</p> <p>(2) 部活動休養日を設定する。(毎週1日以上実施)</p> <p>(3) 職員会、各委員会等の会議は、60分以内終了を目途に取り組む。(達成率:80%以上)</p> <p>(4) 前年度比15%以上の時間外労働時間の縮減に取り組む。(月に1時間)</p> <p>(5) 休暇取得日数の増加に取り組む。(年に1日分以上)</p>	<p>(1)毎月第1・第3金曜日</p> <p>(2)毎週1日以上休み</p> <p>(3)平均 65.4%(7月～1月)</p> <p>(4)平均 45.7%増(4月～1月)(月に1.6時間増)</p> <p>(5)90%(4月～1月)</p>	※

改善課題

開かれた学校への展開として、引き続き、保護者がより参加しやすい授業参観日の設定や関係者への授業公開等の取組みを進めるとともに、単なる情報発信からニーズに基づき、目的・意図をもった情報発信の見直し検討していく必要がある。また、定時退校日や会議の短縮等の意識は広まってきている中で、IT等の活用や情報共有の仕方の見直し等の具体的な取組みが課題である。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none">・現在も行われているが、小さい頃から、小、中、高・・・という切れ目のない支援が重要である。小さい頃は地元とのつながりが強いが、だんだんと薄れていく。・防犯面で地域的に夜間暗い、休日の出入り等から灯りを増やす等の対策で車へいたずらが減る等の効果があった。具体的な機器や設備等による防犯対策も課題。・避難訓練は、想定を変える。避難の次に考えられる引き渡し訓練等にも取り組んでいく必要がある。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・キャリア教育の更なる定着、充実を推進する。キャリア教育の視点で、授業等の教育活動を捉え直し、個々の指導との関連を意識し、授業改善に取り組む。・社会性の伸長について、日常的な場面、行事等を通じて、意識的に指導を続けていく。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・保・幼・小・中学校や関係機関と引き続き連携を行い、研修会の持ち方や情報発信の仕方を見直すとともに、パーソナルカルテの活用の促進に努め、特別支援学校のセンター的役割の充実を推進していく。・防災、防犯について、保護者、地域、近隣施設と連携し、想定を見直す等のより実践的な訓練に取り組んでいく。